

山梨県韋崎市発掘調査報告書

後田堂ノ前遺跡発掘調査報告書

2011.9

韋崎市遺跡調査会

韋崎市教育委員会

後田堂ノ前遺跡発掘調査報告書

2011.9

韮崎市遺跡調査会
韮崎市教育委員会

序 文

韮崎市は武田発祥の地であり、武田氏ゆかりの史跡が数多く残っております。武田氏最後の城である新府城跡やその関連性のある武田八幡宮、白山城跡、能見城跡や願成寺があり、また、治水造構として、御勅使川印堤防跡（将棋頭）など、枚挙に暇のないほどであります。

韮崎市の地形を特徴づけている七里岩の上には坂井遺跡・宿尻遺跡・坂井南遺跡・新府城跡などをはじめ数多くの遺跡の存在が知られています。七里岩と塩川に挟まれた地域は、肥沃な土地で、藤井平五千石とも呼ばれる一大穀倉地帯であります。耕地としてだけではなく、先人達の歴史が刻まれている地域であります。この度の調査対象となった後田堂ノ前遺跡は、過去の周辺の調査により、縄文時代から平安時代の集落跡であることが把握されております。今回の調査では、弥生時代の墓坑や古墳時代の竪穴住居跡などが検出され、本遺跡の空間的な先人達の土地利用の一端を知ることができました。

記録保存の範囲を最小限にとどめ、後世に遺跡を伝えることのできた範囲の広いことは、事業者の方をはじめとする関係者のご理解とご協力のなかで実現できたことであります。

このような調査の積み重ねにより、地域の過去が解き明かされていくこととともに、発展的なまちづくりにも還元していくことと思います。

調査にあたり、ご理解をいただきました事業者の方をはじめ関係者の皆様方へ感謝申し上げます。

韮崎市遺跡調査会
事務局長 輿水 豊

例　　言

- 1 本書は茲崎市藤井町北下條に所在する後田堂ノ前遺跡における集合住宅建設工事に伴う緊急発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査ならびに、整理作業は事業者と茲崎市遺跡調査会で締結した協定書にもとづき、茲崎市遺跡調査会で実施し、茲崎市教育委員会はその調査に対し監理をおこなった。
- 3 発掘調査ならびに、整理作業は茲崎市遺跡調査会の間間俊明が担当した。第4章自然

科学分析を分析委託先のパリノ、その他の項目についての執筆ならびに編集は間間がおこなった。

- 4 本書に関わる出土品・諸記録は茲崎市教育委員会において保管されている。

5 組織

茲崎市遺跡調査会

事務局長：奥水豊　課長：下村貞俊（前任：横森淳彦）　課長補佐：山下孝司　リーダー：（前任：伊藤保昭）　担当：間間俊明

凡　　例

- 測量に用いた座標は世界測地系を用いている。
- 遺物の出土地点や遺構の平面図等の記録については平板測量と光波測定を併用している。
- 調査時並びに本書で用いた略号は次のとおりである。

JU：堅穴建物跡

SD：土坑 PT：ピット・柱穴

RR：流路跡 MZ：溝跡

- 遺構及び遺物等の図面の縮尺については各図に示したとおりである。

- 調査区全体図等で示した竪穴建物跡などの調査区外におけるラインはあくまでも、各遺構の存在を示したものであり、規模等については調査対象範囲の関係で明確になっているものではない。

目　　次

序 文

第3章 調査の方法と成果…………… 1

例 言

第4章 自然科学分析…………… 5

目 次

第5章 まとめ…………… 7

第1章 調査経過…………… 1

挿 図

第2章 遺跡の環境…………… 1

写真図版

第1章 調査経過

周知の埋蔵文化財包蔵地である後田堂ノ前遺跡で集合住宅建設計画があり、文化財保護法第93条に関する届出があった。市教委では、過去に別計画で当該対象地の試掘経過があり、遺構・遺物が包含されていることが確実であることを把握していたことから、本調査が必要であることを意見として山梨県教育委員会に経由進達をおこなった。その後、山梨県教育委員会から本調査の指示が事業者に通知された。市教委と事業者で協議をおこない、現状での遺跡保存の可能な設計計画が作成されたことから、その範囲については盛土保存の協定を締結し、設計上記録保存とせざるを得ない地点について発掘調査を実施することとした。

発掘調査は、事業者と並崎市遺跡調査会で埋蔵文化財発掘調査に関する協定を締結し実施した。

調査の概要は次のとおりである。

平成22年

10月18日（月）重機による表土剥ぎ。調査区境界にロープ設営。プレハブ等設置。

10月19日（火）重機稼動。

10月20日（水）造構確認精査。

1号竪穴と2号竪穴等の造構を確認。流路等の造構調査。

10月22日（金）造構確認精査。

3号竪穴等の造構を確認。

10月26日（火）造構調査。

10月27日（水）造構調査。

10月29日（木）遺物包含層調査。

第1調査区のV～VI層の遺物包含層調査。

11月1日（月）造構・遺物包含層調査。

11月5日（金）調査区内土層堆積状調査。

11月8日（月）調査区・造構等の図面作成。

11月9日（火）道具等運搬・プレハブ撤去等。

現地発掘作業終了。

整理作業は、調査終了後に並崎市遺跡調査会にて、遺物洗浄、遺物注記、遺物接合、遺物実測、作成図面の第2原図等の作成、自然遺物の分析委託などを実施後、報告書の作成をおこなった。

第2章 遺跡の環境

第1節 地理的環境

後田堂ノ前遺跡は八ヶ岳から伸びる七里岩と塩川に挟まれた藤井平と呼ばれる塩川右岸の低位段丘上の標高378m前後に所在する。東側の低位段丘へ繋がる微高地の先端部分である。

藤井平の低位段丘は、七里岩台地の東側を南流する塩川や黒沢川の蛇行により形成され、南北に細長い紡錘形の微高地と微窪地で構成されているが、現在は水田化され平坦となっている。居住空間としての遺跡は、この微高地に点在している。

第2節 歴史的環境

本遺跡の所在する塩川及び黒沢川によって形成された低位河岸段丘である藤井平は江戸時代には「藤井平五千石」と呼ばれる一大穀倉地帯であった歴史を持つ。今回の調査地点の西には中・近世に佐久往還として機能していた主要道路が走る。

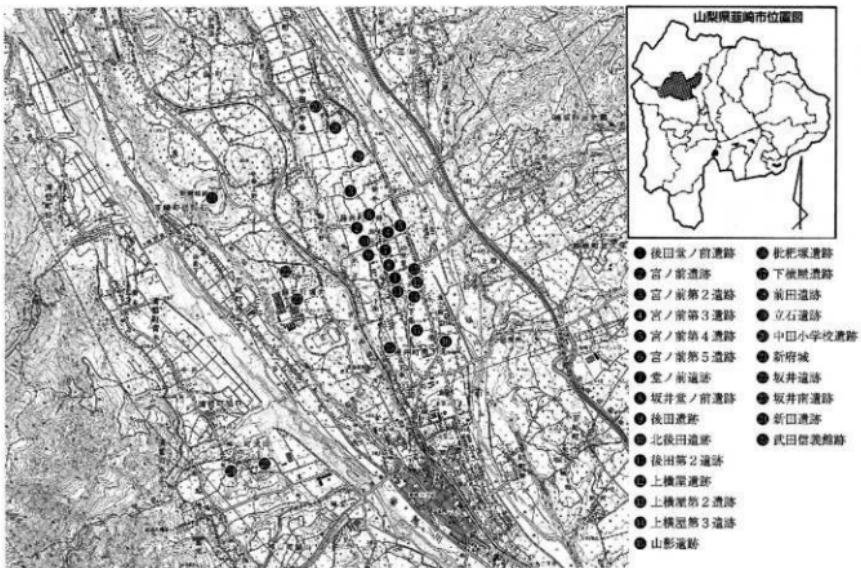
周辺では園場整備事業や民間開発等に伴う発掘調査が実施されている。今回の調査地点の南側・北側・東側で隣接して本調査が実施され、縄文時代～平安時代にかけて造構・遺物が検出されている。

第3章 調査の方法と成果

第1節 調査の方法

発掘調査にあたって、工事設計図に基づき調査範囲を設定し、重機により造構確認面もし

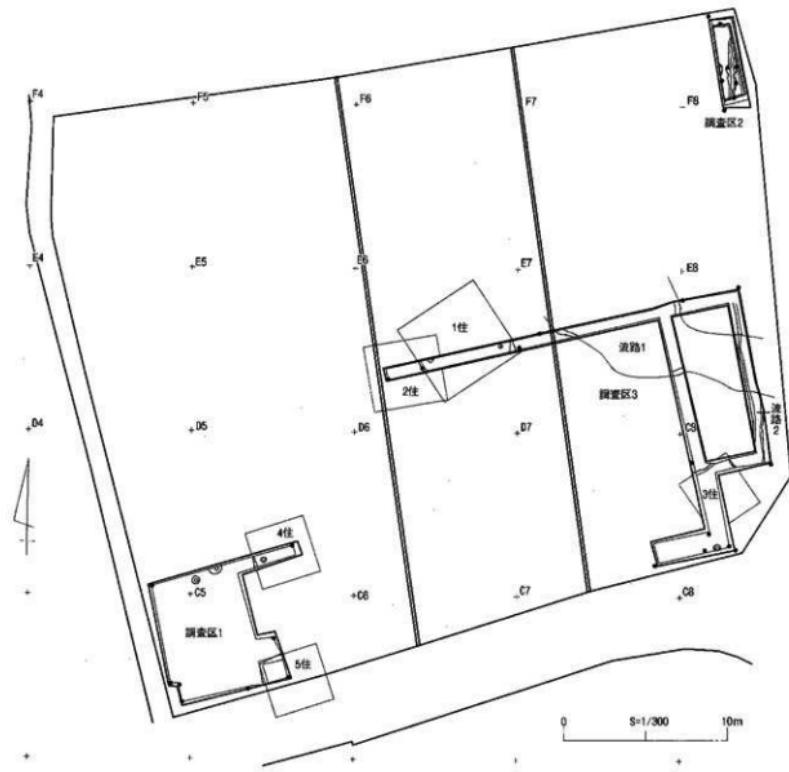
くは遺物包含層の上面まで掘下げた。その後、動態等による造構確認をおこない、検出された造構について調査をおこなった。遺物の取り上



第1図 後田堂ノ前遺跡と周辺の調査遺跡 (S=1/50,000)



第2図 後田堂ノ前遺跡調査範囲 (S=1/5,000)



第3図 調査区全体図 ($S=1/300$)

げ、遺構の平面図については光波測定器を用いるとともに、適宜詳細図面の作成をおこなった。写真撮影については、デジタルカメラを主として用い、調査状況、途中経過、完掘状況などの撮影をおこなった。

調査地点により第1調査区～第3調査区まで設けた。第3調査区について当初グリッドの設定による調査を実施したが、広範囲にわたる遺構が検出されたことから、結果的にグリッド法による調査は実施していない。

第2節 層序

第5図左下図が調査区の南西側で確認した土層断面図である。

第3節 遺構と遺物

第1調査区（CH1）（第4図）

包含層、4・5号竪穴建物跡、2・3号土坑が検出された。

本調査区では掘削当初から遺物の出土が多くなったことから、層位別に遺物の取り上げをおこなった。出土遺物の時期別の分布を示したもののが第6図である。縄文時代晚期の壺の破片がやや集中して出土しているが、遺構としての掘り込みを確認するには至っていない。なお、本遺跡の北西に位置する黒沢川沿いの三宮地遺跡では、同時期の壺棺の土坑やトチの灰を集積した土坑などが検出されている。

第2調査区（CH2）（第8図）

1号暗渠跡及びピットが検出された。

第3調査区（CH3）（第11図）

1～3号竪穴建物跡、1号土坑、1・2号流路跡が検出された。

1号竪穴建物跡（JU1・1住）（第10・12・13図）

第3調査区の西部分の掘下げ中に炭化物・焼土の混ざる黒褐色土となつたことから、竪穴の覆土の可能性を視野に入れて、掘下げたところ、遺構の掘り込みを確認したことから、竪穴建物跡と認定した。

本遺構確認面で把握した炭化物及び焼土を含む土壤は床面にまでは達しておらず、覆土中にブロック状に形成されたものである。またそのブロック状の土壤中ならびにその周辺から、第12図の1住-1及び2が出土している。これら

は胎土や整形・成形方法から弥生時代から古墳時代の遺物とは異なり、中世以降の所産である可能性が高い。今回の調査では、1軒の竪穴建物跡として捉えたが、重複関係があった可能性を指摘しておく。

床面には丸みを帯びた礫がまとまって分布するが、敷き詰めた状況ではなく、竪穴廃絶時に自然か人為かの判断はできないが廃棄されたものと捉えることができる。礫の一部には、くぼみ等のある石器が含まれているが、同一層内から出土する土器の時期と同じ所産であるとは断定できない。前述の土器を除き、他の出土土器は弥生時代後期から古墳時代前期のものが中心であり、本遺構の所属時期も同様と考えられる。

なお、挿図中には竪穴建物跡の想定ラインを記入してあるが、あくまでも竪穴建物の存在をイメージできるように示したものであり、その規模等については今回の調査では知りえるデータを抽出できていない。このことは、3号竪穴建物跡を除く他の竪穴建物跡でも当てはまることがある。

2号竪穴建物跡（JU2・2住）（第10図）

1号竪穴建物跡の遺構確認面で貼り床を確認したことから竪穴建物跡と認定した。1号竪穴建物に床を掘削されている。このことから、本遺構は弥生時代後期から古墳時代前期以前の所産である。

3号竪穴建物跡（JU3・3住）（第11・13図）

第3調査区の南部分の掘下げ中に、遺物の出土が見られたことから、竪穴建物跡の存在を考慮しながら、掘下げたところ、北壁にあたる部分の掘り込みを確認し、さらに一部で土壤硬化面を検出したことから竪穴建物跡と認定した。

床面から覆土にかけて遺物が出土したが、弥生時代後期の壺や古墳時代中期以降の須恵器等が出土している。出土遺物が概ね竪穴遺構の所属時期を示しているものと考えられる。

4号竪穴建物跡（JU4・4住）（第1・14図）

第1調査区の北東部分を掘下げ中に、炭化物・焼土の混ざる黒褐色土となつたことから、竪穴の覆土の可能性を視野に入れて、掘下げたところ

ところ、遺構の掘り込みを確認したことから、竪穴建物跡と認定した。調査区土層断面の観察ではVa層から掘り込まれている。掘り込みから床面までの深さは約65cmである。床面では竪穴中央に向かってやや堅密な貼り床が認められた。

覆土下層から古墳時代後期の坏や長胴壳などが出土した。

出土遺物から古墳時代後期の竪穴建物跡と考えられる。

5号竪穴建物跡 (JU5・5住) (第5・14図)

第1調査区の南東部分を掘下げ中に、炭化物・焼土の混ざる黒褐色土となったことから、竪穴の覆土の可能性を視野に入れて、掘下げたところ、遺構の掘り込みを確認したことから、竪穴建物跡と認定した。調査区土層断面の観察ではV層から掘り込まれている。掘り込みから床面までの深さは約70cmである。

覆土に砂で構成される層があることから、竪穴廃絶以降に洪水にあったものと考えられる。

一方で、その砂層は竪穴外では確認されておらず、比較的小規模な氾濫によるものと考えられる。

覆土上層で灰釉陶器が出土しているが、下層で出土した放射状暗文を持つ坏を本遺構の所属時期と捉えておく。

1号土坑 (SD1) (第11図)

3号竪穴建物跡の南側に位置する。遺構確認面での直径約50cmの円形の土坑内から弥生時代後期の櫛波波状文の施文された壺の大型破片が出土した。土坑の上部については、隣接する道路拡張時に掘削されたものと考えられる。

1号流路跡 (RR1) (第9図)

調査区の北から南東方向へ向かう流路跡である。

2号流路跡 (RR2) (第9図)

調査区の北から南へ向かう流路跡である。
「■■元賀」の渡来銭が出土している (第15図 RR2-4)。

第4章 自然科学分析

分析対象資料の出土した後川堂ノ前遺跡 (山梨県立崎市藤井町北下条・坂井所在) は、塙川右岸の塙川が形成した谷底平野に立地する。本遺跡の発掘調査では、古墳時代以降の竪穴住居跡と考えられる遺構や、中世と考えられる焼土ブロックなどが確認され、前章までに報告されている。

本章では、上記した竪穴住居跡における植物利用の検討を目的として、住居跡床面より採取された土壤試料を対象に種実遺体分析を実施した。なお、本分析では対象とした試料における種実遺体の症状が悪かったことから、代替試料として供された炭化材について樹種同定を実施している。

1. 試料

試料は、古墳時代以降の住居跡床面より採取された土壤1点 (JU5床直) と、中世と考えられる焼土ブロックより出土した炭化材4点 (TZ-1~TZ-4) である。土壤試料は炭化材が認められる砂混じりの泥であり、炭化材試料は

5~10mm角程度の炭化材片が混じる黒褐~暗褐色の砂混じり泥からなる。

2. 分析方法

(1) 種実遺体分析

試料300ccを水に浸し、粒径0.5mmの篩を通して水洗する。篩内の試料を粒径別にシャーレに集めて双眼実体顕微鏡下で観察し、ピンセットを用いて同定が可能な種実や炭化材 (主に径4mm以上)、動物遺存体等の遺物を拾い出す。種実遺体の同定は、現生標本と石川 (1994)、中山ほか (2000) 等との対照より実施し、個数を集計して一覧表で示す。炭化材、動物遺存体は、70°C・48時間乾燥後の重量と最大径を求める。分析後は、抽出物を容器に入れて保管する。

(2) 炭化材同定

試料を自然乾燥させた後、木口 (横断面)・板目 (放射断面)・板目 (接線断面) の3断面の割断面を作製し、実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡を用いて木材組織の種類や配列を観察

し、その特徴を現生標本および独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類を同定する。

同定の根拠となる顕微鏡下での木材組織の特徴等は、鳥地・伊東(1982)や Wheeler 他(1998)を参考にする。また、各樹種の木材組織については、林(1991)や伊東(1995, 1996, 1997, 1998, 1999)を参考にする。

3. 結果

(1) 種実遺体分析

土壤試料(JU5床直)からは、落葉広葉樹のサンショウの種子の破片1個のほか、炭化材10.82g(最大径11.7mm)、骨片3個(0.01g未満、最大径2mm)が検出された。以下に、種実遺体の形態的特徴を記す。

炭化材同定結果表

試料名	時期	樹種	備考
JU5床直	古墳時代 以降	コナラ属コナラ 亜属クヌギ節	種実遺体分析 で検出された 炭化材より抽出
		コナラ属コナラ 亜属クヌギ節	
TZ-1	中世か	コナラ属コナラ 亜属コナラ節	
TZ-2	中世か	コナラ属コナラ 亜属クヌギ節	
TZ-3	中世か	コナラ属コナラ 亜属コナラ節	

• サンショウ (*Zanthoxylum piperitum* (L.) DC.) ミカン科サンショウ属

種子は黒色、完形ならば長さ4mm、幅3mm、厚さ2.5mm程度のやや偏平な倒卵形体で、腹面正中線上基部に斜切形の臍がある。破片は2.5mm程度。種皮は厚く硬く、表面には浅く細かな網目模様がある。

(2) 炭化材同定

結果を表1に示す。炭化材は、落葉広葉樹2分類群(コナラ属コナラ亜属クヌギ節、コナラ属コナラ亜属コナラ節)に同定された。以下に、各分類群の解剖学的特徴等を記す。

• コナラ属コナラ亜属クヌギ節 (*Quercus subgen. Quercus sect. Cerris*) ブナ科

環孔材で、孔圈部は1-2列、孔圈外で急激に管径を減じたのち、単独で放射方向に配列し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は單穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1-20細胞高のものと複合放射組織がある。

• コナラ属コナラ亜属コナラ節 (*Quercus subgen. Quercus sect. Prinus*) ブナ科

環孔材で、孔圈部は1-3列、孔圈外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は單穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1-20細胞高のものと複合放射組織がある。

4. 考察

古墳時代以降と考えられる堅穴住居跡の土壤試料(JU5床直)から検出された炭化材は、落葉高木のクヌギ節であった。クヌギ節には、クヌギとアベマキの2種があるが、現在の山梨県では二次林等として生育するクヌギが一般的であり、アベマキは分布していない。このことから、今回確認されたクヌギ節はクヌギの可能性が高い。クヌギの木材は、重硬で強度が高く、薪炭材としては国産材で最も優良な種類の一つとされる。

また、中世の可能性がある焼土ブロックから出土した炭化材は、クヌギ節とコナラ節に同定された。コナラ節は、クヌギ節と同様に二次林を構成する落葉高木であり、木材は重硬で強度が高く、クヌギ節と共に薪炭材として重要な種類とされる。

蔚崎市域における炭化材の調査では、坂井南遺跡の古墳時代前期の堅穴住居跡から出土した建築部材と考えられる炭化材(パリノ・サーヴェイ株式会社、1986)にクヌギ節が、前田遺跡の平安時代の住居跡から出土した炭化材(パリノ・サーヴェイ株式会社、1988)にクヌギ節およびコナラ節が確認されており、当該期の住居構築材にクヌギ節やコナラ節が利用されていたことが明らかとされている。

なお、JU5床直からは、サンショウの種子が検出された。サンショウは、丘陵や低い山地のやや湿り気の多い林縁や林内に生育する落葉低

木であることから、周辺の林分あるいはその周縁に生育した樹木に由来すると考えられる。なお、検出された種実は、明瞭な炭化が認められなかったため、その由来については後代の混入の可能性も含めて検討する必要がある。

引用文献

- 林 昭三, 1991, 日本産木材 跡微鏡写真集, 京都大学木質科学研究所.
- 石川茂雄, 1994, 原色日本植物種子写真図鑑, 石川茂雄図鑑刊行委員会, 328p.
- 伊東隆夫, 1995, 日本産広葉樹材の解剖学的記載I. 木材研究・資料, 31, 京都大学木質科学研究所, 81-181.
- 伊東隆夫, 1996, 日本産広葉樹材の解剖学的記載II. 木材研究・資料, 32, 京都大学木質科学研究所, 66-176.
- 伊東隆夫, 1997, 日本産広葉樹材の解剖学的記載III. 木材研究・資料, 33, 京都大学木質科学研究所, 83-201.
- 伊東隆夫, 1998, 日本産広葉樹材の解剖学的記載IV. 木材研究・資料, 34, 京都大学木質科学研究所, 30-166.
- 伊東隆夫, 1999, 日本産広葉樹材の解剖学的記載V. 木材研究・資料, 35, 京都大学木質科学研究所, 47-216.
- 中山至大・井之口希秀・南谷忠志, 2000, 日本植物種子図鑑, 東北大学出版会, 642p.
- パリノ・サーヴェイ株式会社, 1986, 坂井南遺跡試料 花粉分析 材同定 重歯物分析 粒度分析及び種子同定報告「坂井南遺跡 山梨県韮崎市坂井南遺跡発掘調査報告書」, 韮崎市教育委員会・東京エレクトロン株式会社, 1-19.
- パリノ・サーヴェイ株式会社, 1988, 前田遺跡出土炭化木材同定「山梨県韮崎市 前田遺跡 県営四場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書」, 韮崎市教育委員会, 37-39.
- 島地 謙・伊東隆夫, 1982, 四説木材組織, 地球社, 176p.
- Wheeler E. A., Bass P., and Gasson P. E. (編), 1998, 広葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト, 伊東隆夫・藤井智之・佐伯 浩(日本語版監修), 海音社, 122p. [Wheeler E. A., Bass P., and Gasson P. E. (1989) IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification].

第5章

まとめ

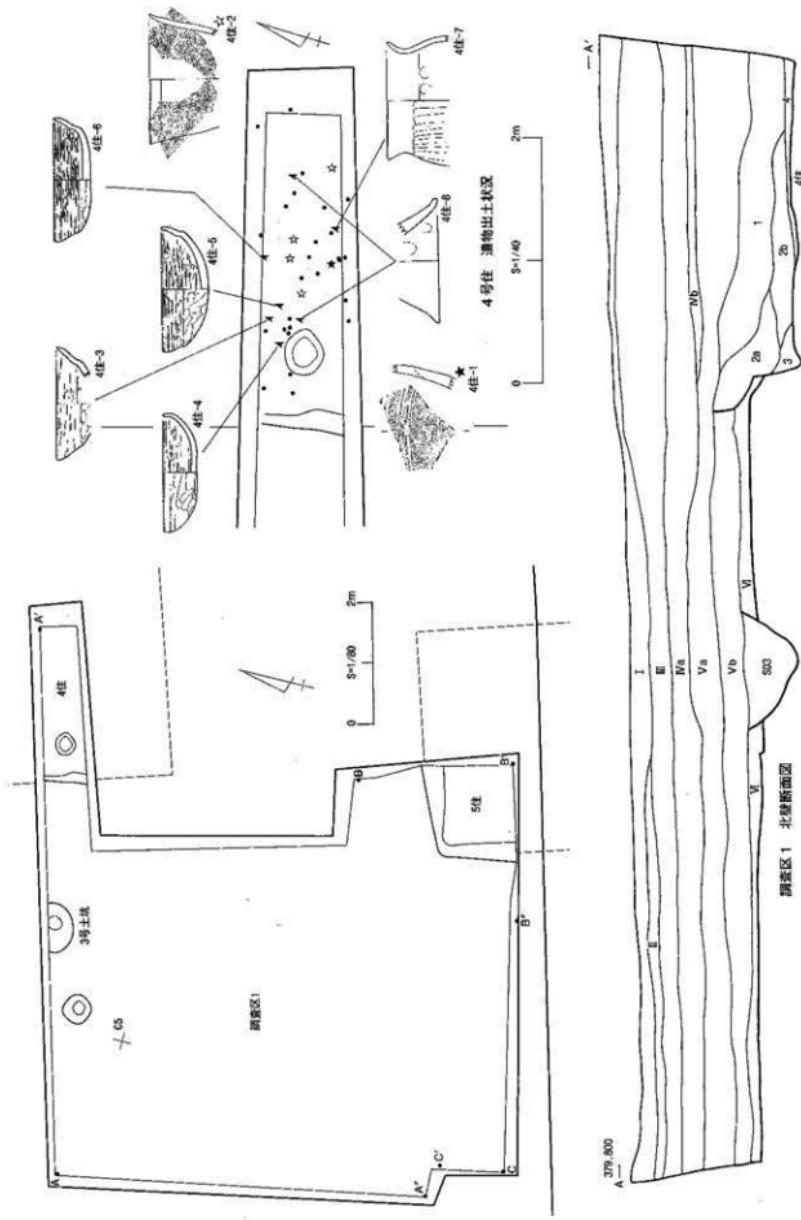
これまで後田堂ノ前遺跡及びその周辺で発掘調査が実施され、縄文時代から平安時代にかけての複合的な集落跡であることが把握され、各時代における土地利用の一端が解明されてきたところである。

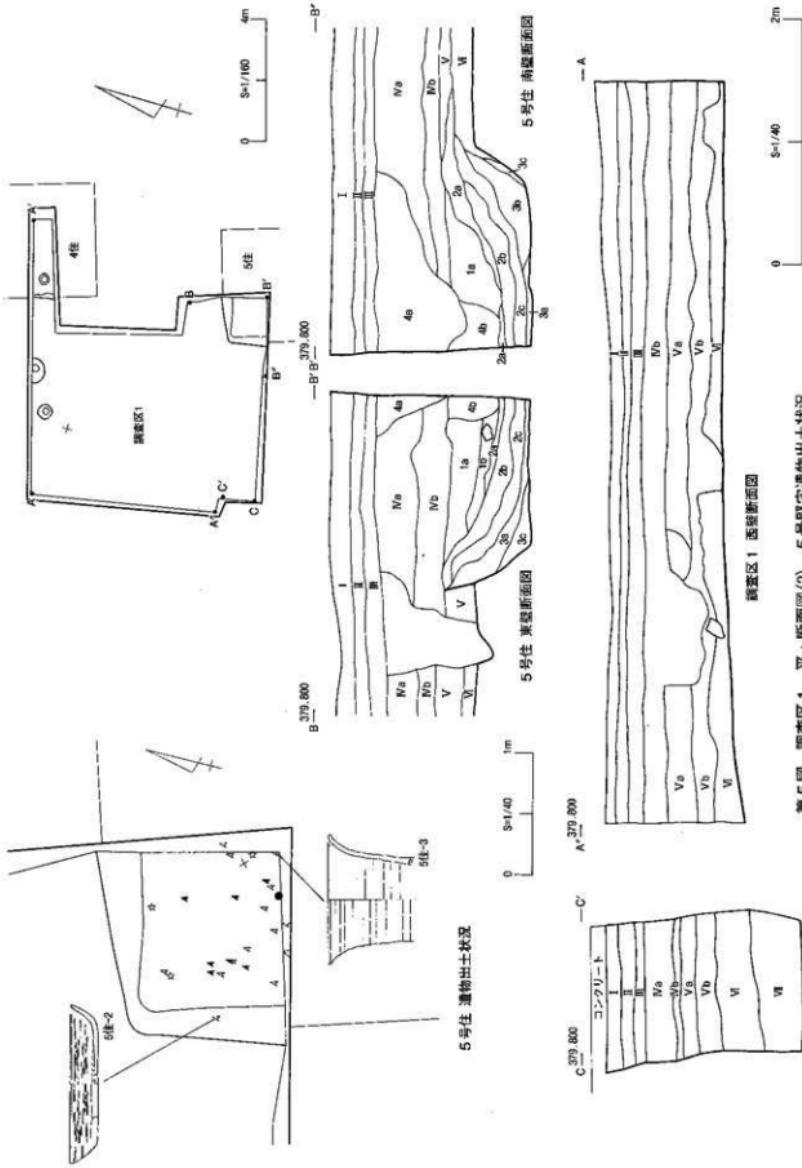
今回の調査では、これまで確認されなかつた中世の可能性のある遺物及びそれに関連する焼土を含むブロックが確認された。本調査地点の周辺の地籍図をみると、方形区画を認めることが出来るものが数箇所ある。これらの方形区画のすべてが中世にさかのばるとは断言できないが、今回の出土遺物により、本遺跡ならびにその周辺に中世段階の遺構・遺物の存在する可能

性が高まつたといえよう。

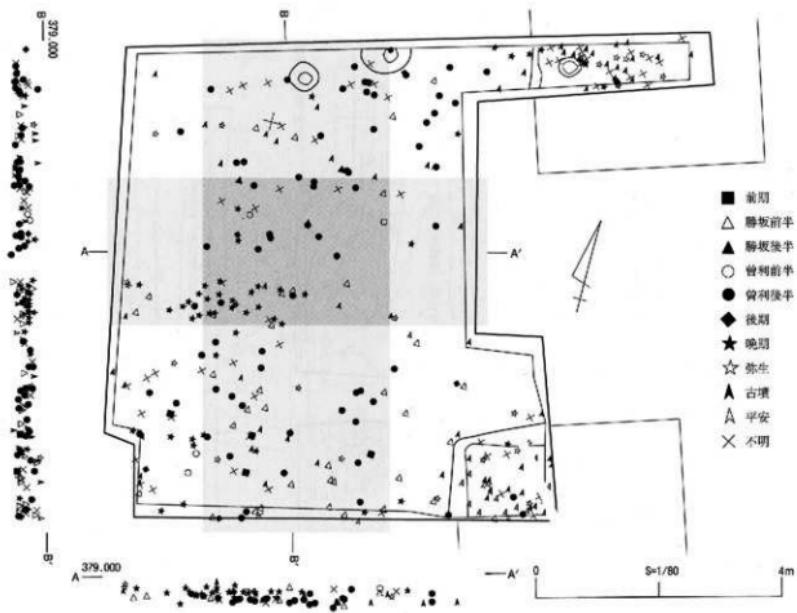
また、竪穴建物跡といった居住を想定できる遺構とともに、流路跡を確認した。流路の時期を限定することは困難ではあるが、藤井平のような地形上での土地利用方法を探る上では看過できない遺構であり、丹念に調査記録をとり、それらをつなぎ合わせていくことで、藤井平の時期別の土地利用方法を検証することができるこことなると考えられる。さらに、自然科学分析では、樹木利用について、使用目的別に選別されていたことを示す資料が蓄積されつつある。

第4圖 調查區1 平、斷面圖、4號窯口、遺物出土狀況

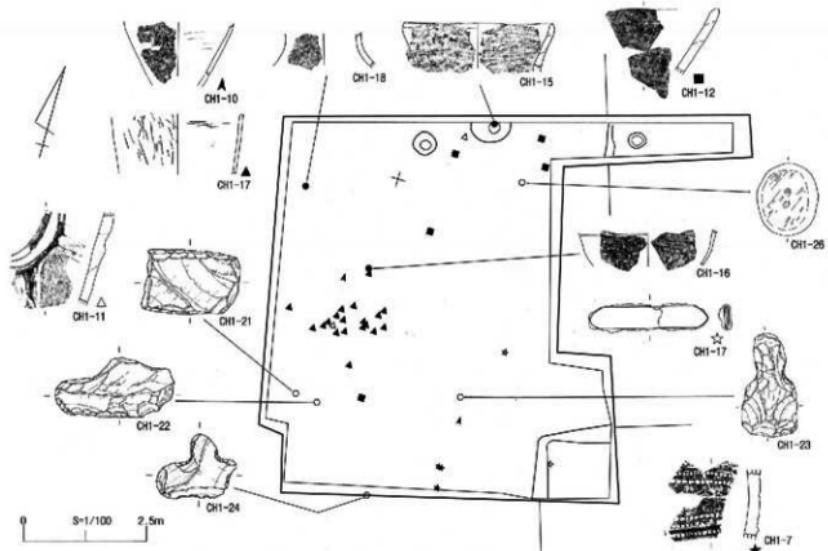




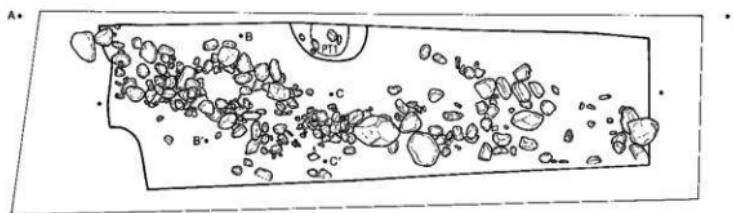
第5図 墓塚区1 平・断面図(2)、5号壁穴遺物出土状況



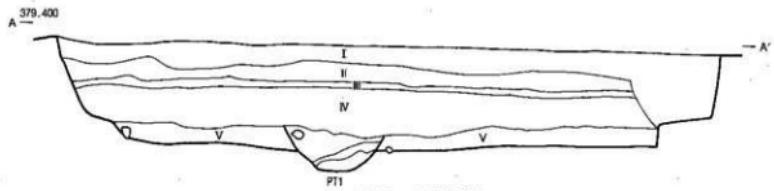
第6図 調査区1 時期別出土状況



第7図 調査区1 遺物出土状況



調査区2 碑渠検出状況



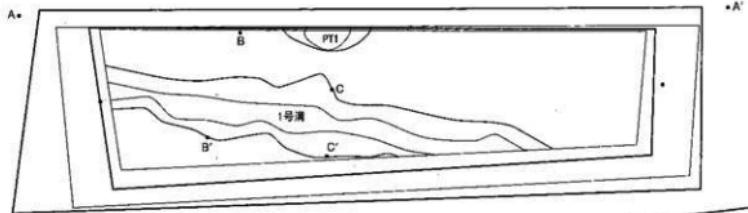
調査区2 西壁断面図

+
FB



1号溝 断面図

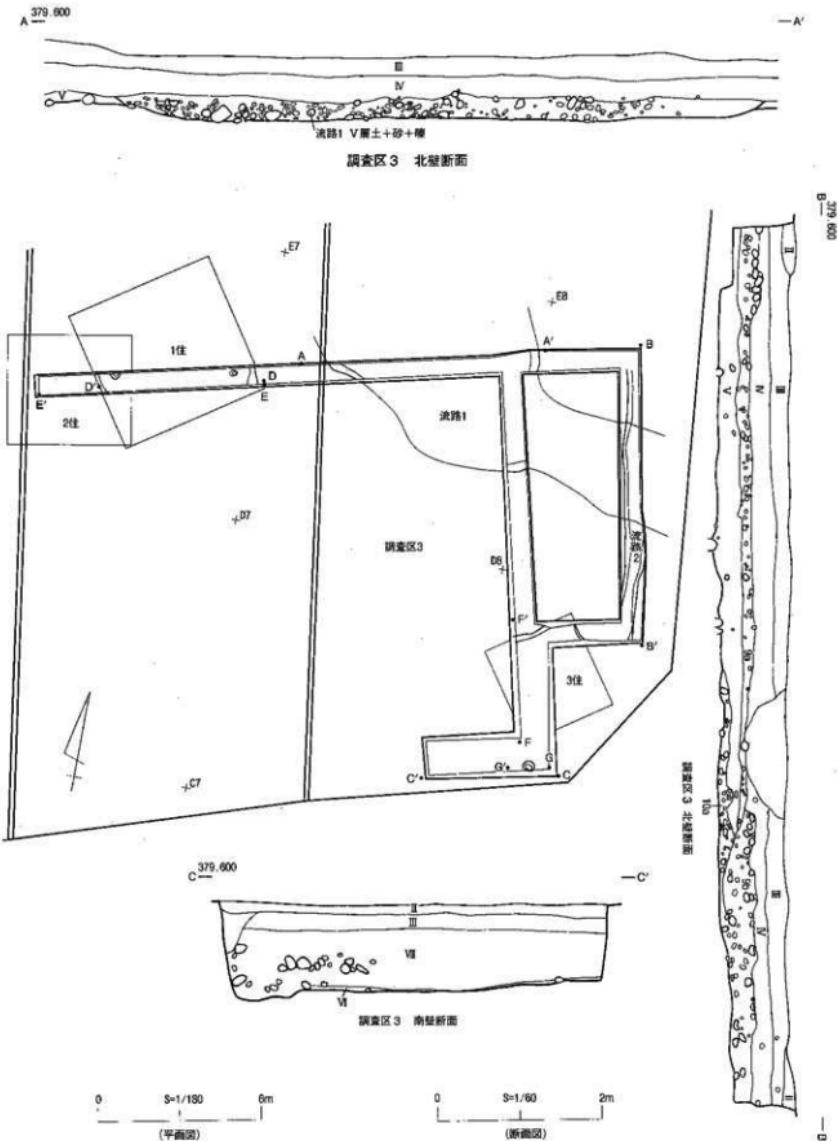
+
FB



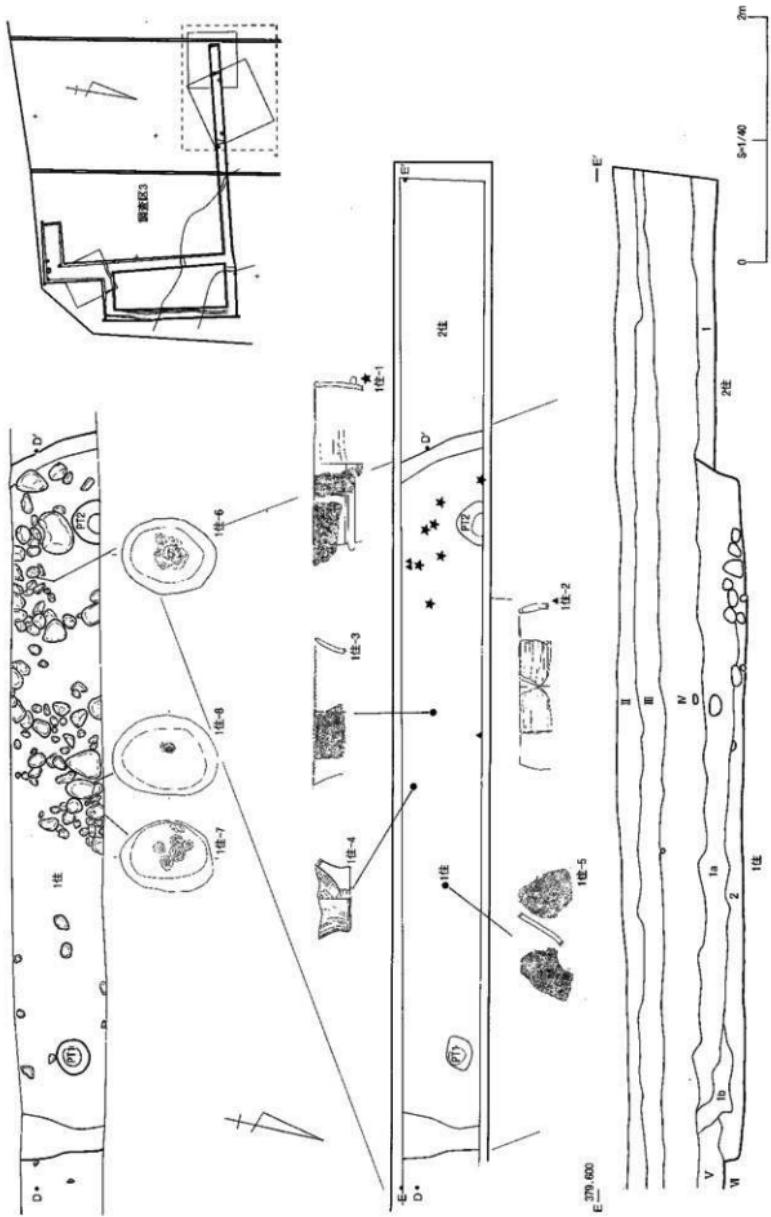
調査区2 完堀

0 S=1/40 2m

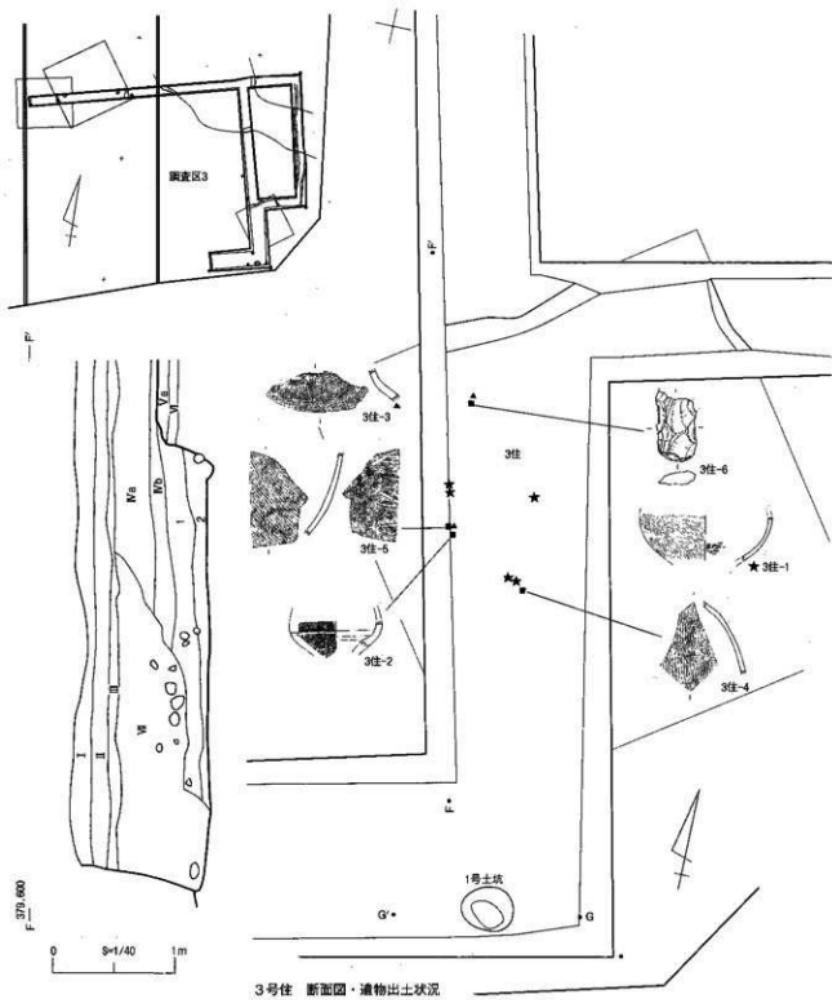
第8図 調査区2 平・断面図



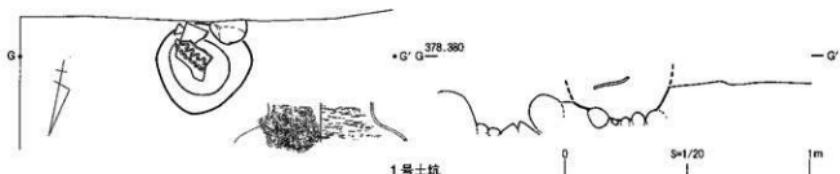
第9図 調査区3 平・断面図



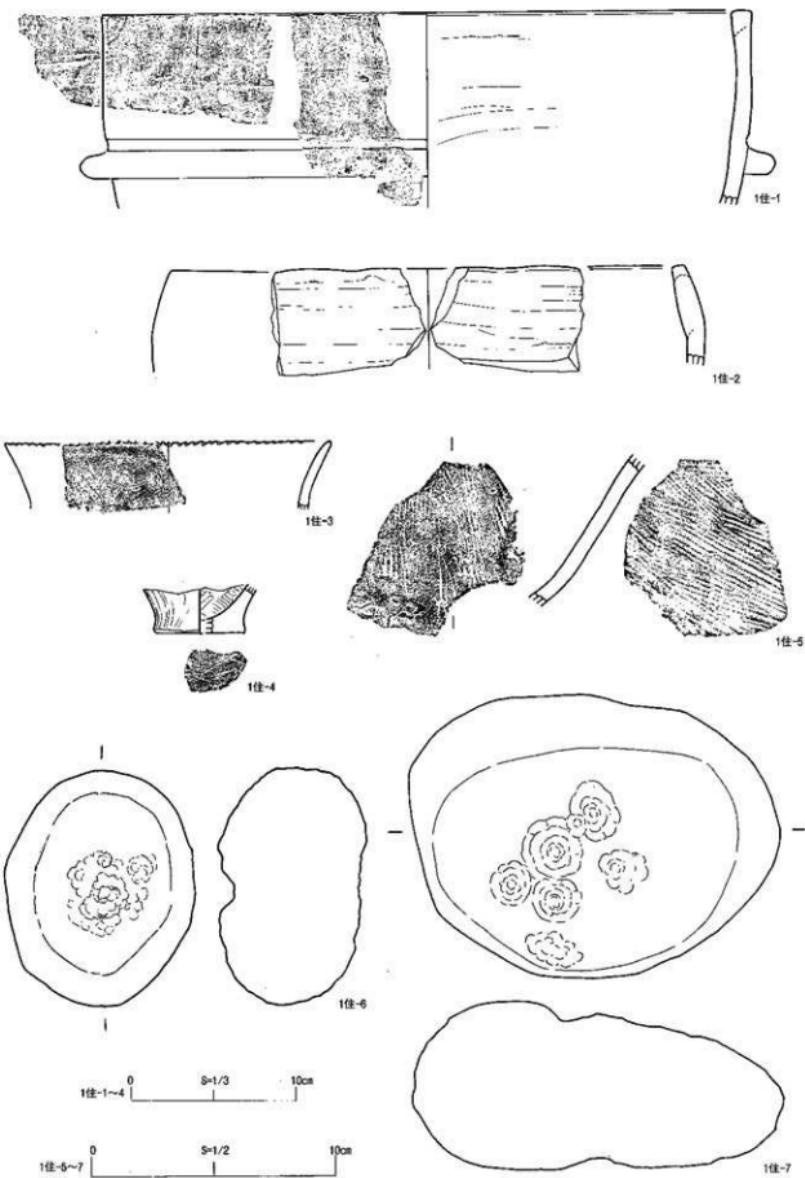
第10圖 1・2號豎穴 平・斷面圖



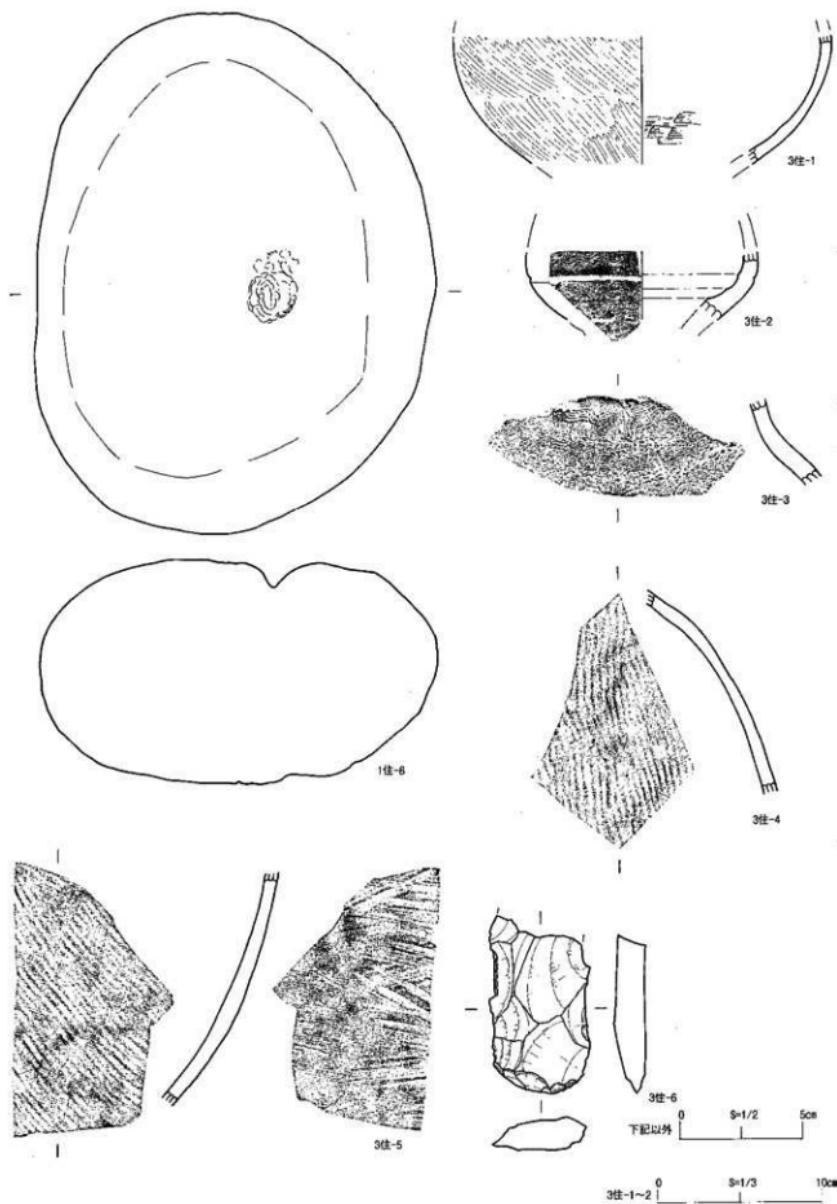
3号住 断面図・遺物出土状況



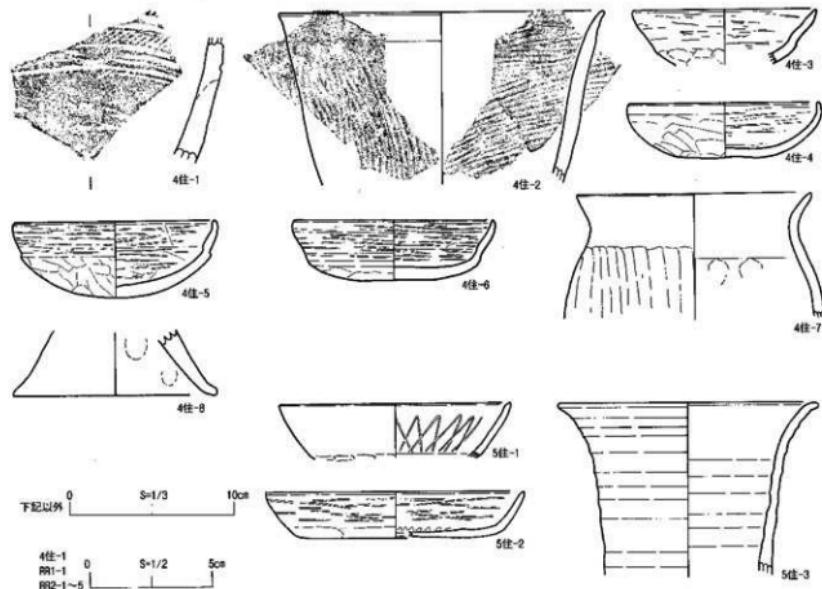
第11図 3号竪穴・1号土坑 平・断面図



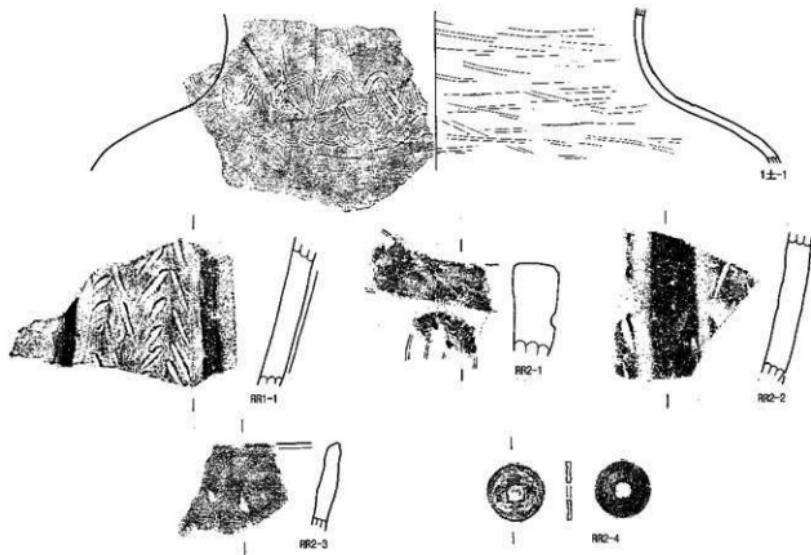
第12図 1号墳穴 出土遺物(1)



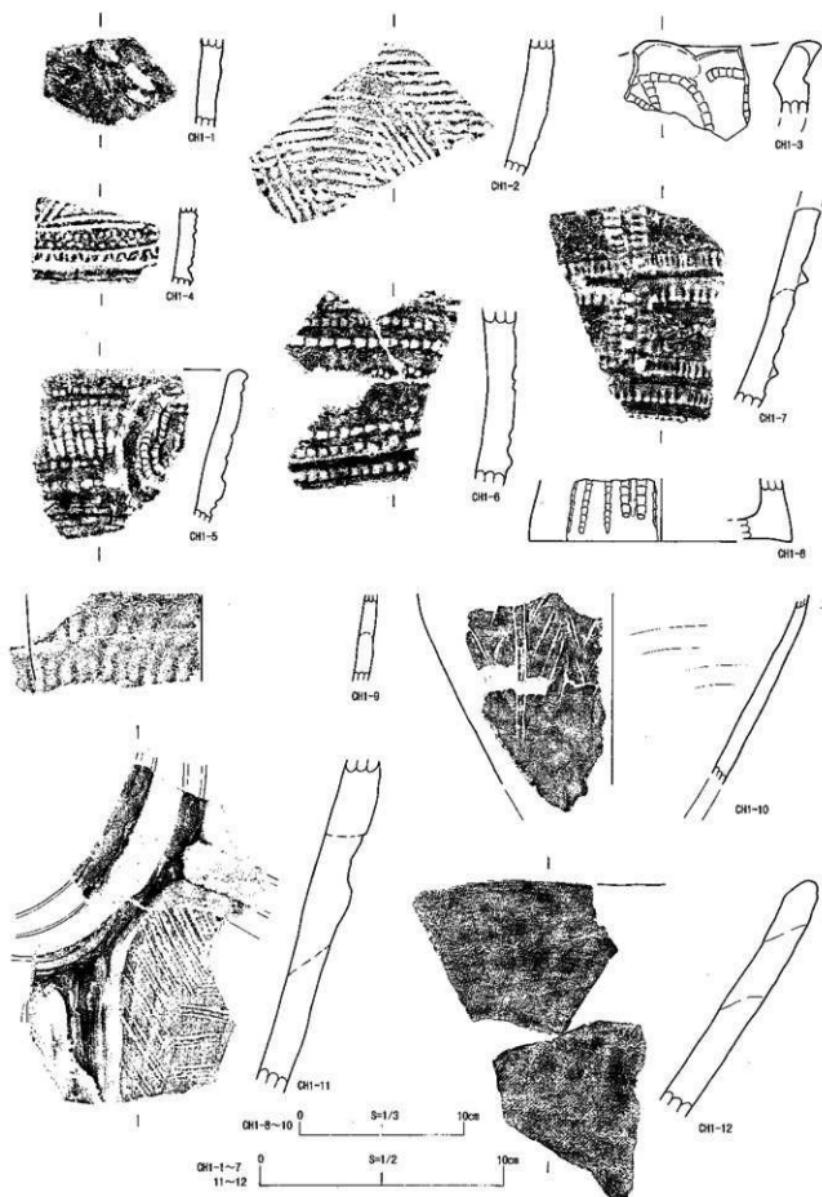
第13図 1・3号竪穴 出土遺物



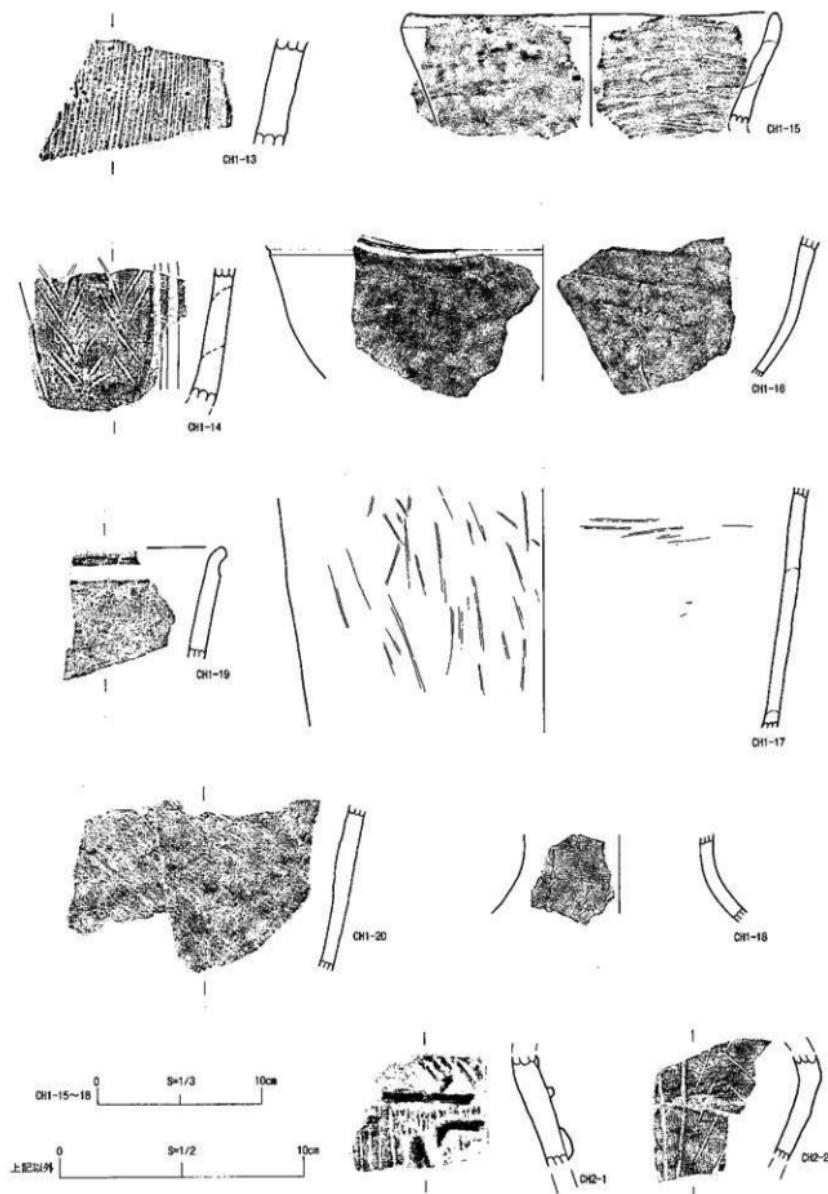
第14図 4・5号竪穴 出土遺物



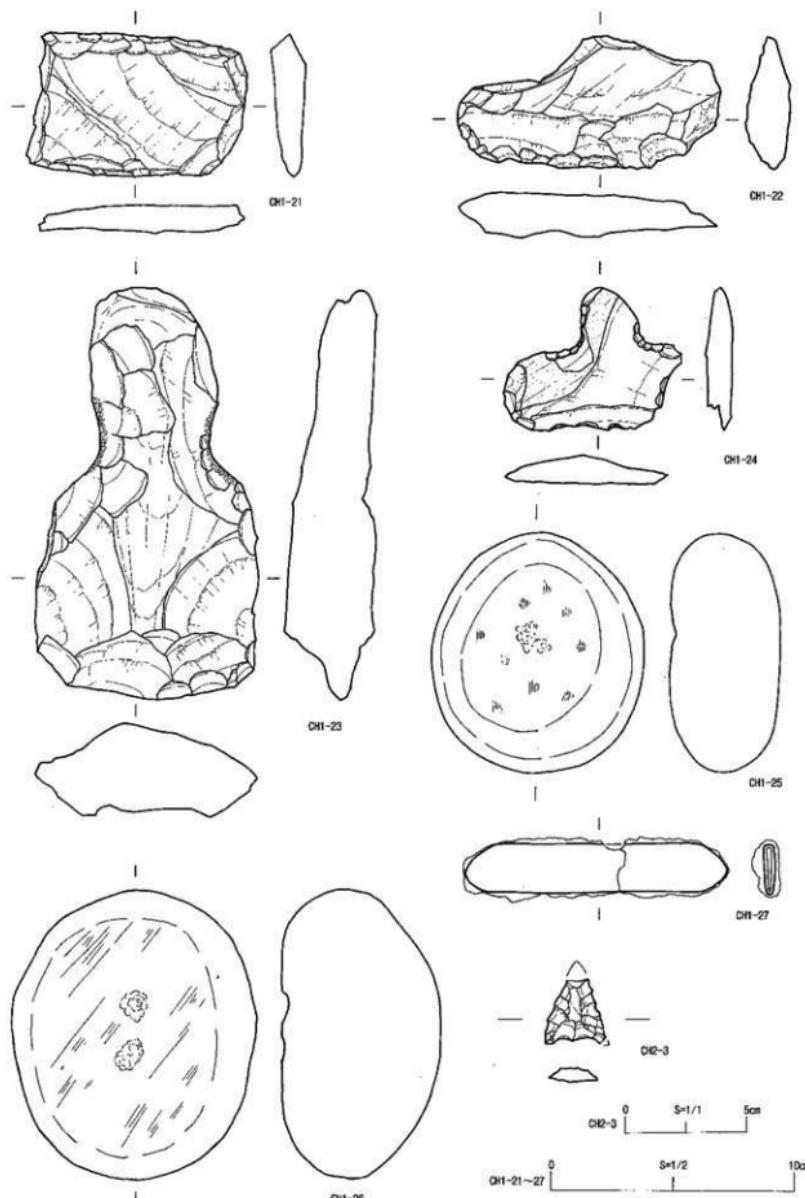
第15図 流路1・2 出土遺物



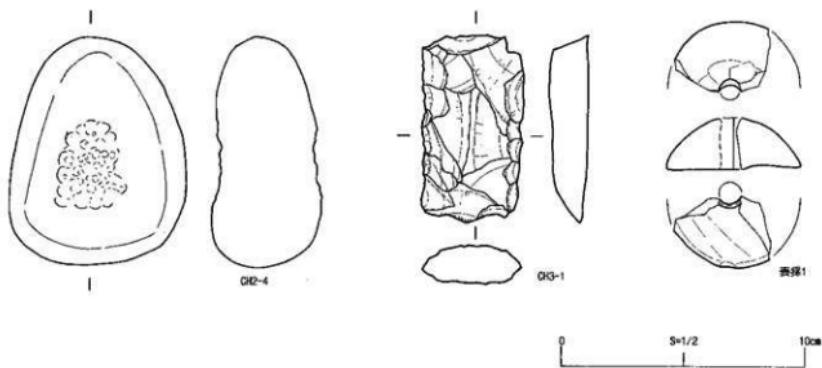
第16図 調査区1 出土遺物



第17図 調査区1・2 出土遺物



第18図 調査区1・2 出土遺物



第19図 調査区2・3・表探 出土遺物

留版	No.	注記	地質	層位	鉱形	色調(内)	色調(外)	块十	部位	器高 / mm	口径 / mm	底径 / mm	備考
12	1住-1	JU1-15・16・17・18・24	中生	土質	灰岩	灰褐色～黑	白・黑・焦化	口縁～底部	把手	-	40.0	-	(内) 横ハケ目 (外) 口縁 縦ハケ目 打子あり
12	1住-2	JU1-8・22・38	中生	土質	羽状	灰褐色	に赤い斑	白・黑・焦化	口縁部	-	31.6	-	(内・外) 縦ハケ目、輪状 紋あり 内面にのみ底あり (外) 旗で 内面にのみ底あり 文 口縁剥落
12	1住-3	JU1-7上	強生	岩	に赤い黄 鉄	に赤い黄 鉄	に赤い黄 鉄	白・黑・焦化	口縁～底部	-	10.0	-	(内) 旗で (外) 滑面底地 文 口縁剥落
12	1住-4	JU1-4上	山積	土鉱	變又は深鉄	に赤い褐 色	に赤い褐 色	白・金・焦 化	底部	-	-	5.5	(内) 横ハケ目 (外) 縦ハ ケ目 法矢ハケ割り
12	1住-5	JU1-2上	占喰	岩	黃褐色	灰黃褐色	金黄色	白・黑	柄部	-	-	-	(内) 横ハラ目 (外) 縦ハ ケ目
12	1住-6	JU1-33	石墨	閃石					安山岩	-	87	7.7	6.0
12	1住-7	JU1-31	石墨	多孔石					安山岩	-	152	11.5	7.0
13	1住-8	JU1-32	石墨	凹石					安山岩	-	21.4	16.3	9.2
13	3住-1	JU3-6・13・15・16・24・25・一植	私生	土質	鐵	明神寺	赤褐色	白・黑	西部	-	-	-	(内) 起込み部 ハケ目 (外) 壁き
13	3住-2	JU3-21	古墳	礎石群	はそう	灰	灰	赤	柄部	-	-	-	(外) 摩擦で (内) 底形工 具による擦れ迹、底面
13	3住-3	JU3-6・18	強生	岩	赤褐色	赤褐色	赤褐色	金黄色・白・ 黒	柄部	-	-	-	(内) 滑面工具による擦 れ (外) 底形工具による擦 れ文
13	3住-4	JU3-26	平安	須恵器	瓦	灰灰	灰灰	白・黑	柄部	-	-	-	(外) タキ目
13	3住-5	JU3-19	平安	須恵器	瓦	灰	灰	黑・白	柄部	-	-	-	(内) タキ目
13	3住-6	JU3-31	石墨	打革					砂岩	-	7.3	4.1	1.3
14	4住-1	JU4-7上	飛騨	土鉱	深鉄	に赤い褐	に赤い褐	白	側部	-	-	-	(内) 横張で (外) 深張 式
14	4住-2	JU4-5・8・20・25	脊生	土鉱	深鉄	赤褐色～黑 褐色	赤褐色～黑 褐色	白・黑・赤	口縁～側部	-	20.0	-	(内) 横ハケ目 (外) 口縁 縦張で、側部側面ハケ目
14	4住-3	JU4-16上	古墳	土鉱	坏	に赤い赤 褐色	に赤い赤 褐色	白・赤・白	口縁～側部	-	11.1	-	(内) ミガキ (外) ミガキ、 削り
14	4住-4	JU4-33	古墳	土鉱	坏	に赤い赤 褐色	に赤い赤 褐色	赤・白	口縁～端部	3.4	11.6	4.5	(外) 削り→ミガキ
14	4住-5	JU4-34上	古墳	土鉱	坏	赤褐色	赤褐色	赤	口縁～底部	4.7	12.2	4.0	(内) 削り→ミガキ
14	4住-6	JU4-38・一植	古墳	土鉱	坏	明神寺～ 灰灰	明神寺～ 灰灰	赤・白	口縁～底部	3.8	12.2	5.2	(内) 削り→ミガキ
14	4住-7	JU4-29上	古墳	岩	鐵	に赤い赤 褐色	に赤い赤 褐色	赤	口縁～底部	-	14.4	-	(内) 剥離で、母面薄 (外) 口縁部剥離で、軸部側面ハ ケ目削り
14	4住-8	JU4-19・25上	古墳	土鉱	古井第	に赤い赤 褐色	に赤い赤 褐色	白	側部	-	-	12.6	(内) 剥離で、被施で (外) 側部
14	5住-1	JU5-1	古墳	岩	取物	明神寺	赤・白・黑	口縁～底部	-	14.2	-	-	(内) ヘラ跡で
14	5住-2	JU5-21下	平安	岩	明神寺	に赤い赤 褐色	赤・白・赤	口縁～底部	-	14.4	-	-	(内) ヘラ跡で
14	5住-3	JU5-2上	平安	須恵器	瓦	灰	灰	灰	側部	2.8	16.0	12.0	(内) ヘラ跡で
15	1L-1	SD1-1・2・3	私生	岩	青	に赤い青 鉄	に赤い青 鉄	赤・黑・白	口縁～側部	-	15.8	-	(内) 自然形 ピクリ底 形
15	RR1-1	RR1-1	曾利 後	大断	森林	灰黃褐色	に赤い青 鉄	白・黑・赤	側部	-	-	-	(内) 横張で (外) 縦ハケ 式ミガキ状跡
15	RR2-1	RR2-22	曾利 後	土鉱	深鉄	に赤い青 鉄	赤・白	口縫部	-	-	-	(内) 削で	
15	RR2-2	RR2-11	曾利 後	土鉱	深鉄	灰黃褐色	赤・白・赤	側部	-	-	-	(内) 削で (外) ハの字文	
15	RR2-3	RR2-2	中生	内質	に赤い赤 褐色	地歩葉 丸	赤・白・黑	口縫部	-	-	-	(内) 削で	
15	RR2-4	RR2-7	古生	■■元宮						-	-	-	(内) 削で (外) 削で 色 剥離を含む
16	CHI 1	CHIサブトレー基	早期	漆器	灰黃褐色	板	白・黑・赤	側部	-	-	-	-	
16	CHI 2	CHI-233	漆器	土漆	漆器	に赤い赤 褐色	に赤い赤 褐色	白	側部	-	-	-	(内) 斜状剥離

遺物観察表(1)

図版	No	説明	時期	層位	形態	色調(内)	色調(外)	形状	部位	長さ / mm	口径 / mm	直径 / 高さ cm	備考
16	CHI-3	CHI-259V	新石器 前	土器	深鉢	黒	褐	円錐形	口縁部	-	-	-	(内) 横腹で (外) 折刃文
16	CHI-4	CHI-128	新石器 前	土器	深鉢	暗赤褐	暗赤褐	白・黒・赤	頸部	-	-	-	(内) 折で (外) 文字刻痕文
16	CHI-5	CHI-240V	新石器 前	土器	深鉢	青~灰褐色	青~灰褐色	白・黒	山根部	-	-	-	(内) 青で (外) 折刃文
16	CHI-6	CHI-203-213- 254	新石器 前	土器	深鉢	灰褐色	灰褐色	淡青白色・ 黒・茶色	頸部	-	-	-	(内) 無で (外) 無て 勤 引文
16	CHI-7	CHI-115V	新石器 前	土器	深鉢	に赤い青 色	棕~に赤い 青色	白	腹部	-	-	-	(内) 横腹で (外) 折刃文
16	CHI-8	CHI-260V	新石器 前	土器	深鉢	に赤い青 色	棕	白・黒	底部	-	-	16.0	(内) 無で (外) 直下する 折刃文
16	CHI-9	CHI-108-257- 25-238-256	新石器 前	土器	深鉢	に赤い青 色	青色・白・黒 色	白・黒・金 色	腹部	-	-	-	(内) 横腹で (外) 折刃文 上に連續捺突痕
16	CHI-10	CHI-49-64V.	新石器 後	土器	深鉢	に赤い青 色	青色・白・黒 色	白・黒・金 色	頸部	-	-	-	(内) 横腹で (外) ハの字 文
16	CHI-11	CHI-155	新石器 後	土器	深鉢	青	青	白・黒・赤	頸部	-	-	-	(内) 無で (外) 沈痕→巻 縫の内陷性
16	CHI-12	CHI-114-229V	新石器 後	土器	深鉢	青	青	白・黒・赤	底部	-	-	-	(外) ミガキ状痕跡で
17	CHI-13	CHI-159-164	新石器 後	土器	深鉢	明赤紅	明赤紅	白・黒	腹部	-	-	-	(内) 無で (外) タキモノ
17	CHI-14	CHI-207V	新石器 後	土器	深鉢	青	青	白・赤・黒	腹部	-	-	-	(内) 無で (外) ハの字状 紋文→沈痕
17	CHI-15	CHI-166V	系之内	土器	深鉢	灰褐色	褐	白・黒・赤・ 茶色	口縁部	-	22.8	-	(内) 横腹で
17	CHI-16	CHI-141	系之内	土器	鉢	黑褐色	褐~灰褐色	白・茶色	頸部	-	-	-	(内) 横腹で (外) 横化繩
17	CHI-17	CHI-4-6-8-9- 10-11-13-14住	新石器 後	土器	深鉢	に赤い青 色	青色	白・黒・赤 色	頸部	-	-	-	(内) 横腹で (外) 横絞
17	CHI-18	CHI-142V	新石器 後	土器	広口壺	に赤い青 色	金色・白	銀色	腹部	-	-	-	(内) 横腹で (外) 朱画文
17	CHI-19	CHI-2	晚昭	土器	深鉢	に赤い青 色	青	金・黒・白	口縁部	-	-	-	(内) 横腹で (外) 沈痕
17	CHI-20	CHI-268-269	晚昭	土器	深鉢	に赤い青 色	青	乳白・ 黒	腹部	-	-	-	(内) ハク面で (外) 黒で
17	CHI-21	CHI-5	新石器 後	土器	深鉢	に赤い青 色	青	白	頸部	-	-	-	(内) 無で (外) 沈痕・軽 土ひも
17	CHI-22	CHI-15-16	新石器 後	土器	深鉢	赤心高	に赤い青 色	赤・白・黒	頸部	-	-	-	(内) 横腹で (外) ハの字 文・沈痕
18	CHI-23	CHI-77V	石器	石器	刀身				質部	5.8	9.0	1.3	
18	CHI-24	CHI-255V	石器	石器	刀身				質部	5.4	10.8	1.8	
18	CHI-25	CHI-102V	石器	石器	スリ+四 足				質部	5.8	9.1	3.8	
18	CHI-26	CHI-191V	石器	石器	四足				質部	5.8	7.3	1.1	
18	CHI-27	CHI-260-251V	鉄	刀子?					質部	2.0	10.9	0.5	
18	CHI-28	CHI-9	石器	石器	矢孔				質部	1.3	1.3	0.3	
19	CHI-29	CHI-13	石器	石器	刃部				質部	9.4	7.2	4.5	
19	支持-1	一括	平安	土器	粘土車	に赤い青 色	白	1/4底	21	-	5.5	孔径 上0.8cm 下0.6cm 底部ヘラ跡で	

遺物観察表(2)

地塊名	測定名	標高	色調	土層説明
基本土層		I	灰色系十層	耕作土
基本土層		II	灰褐色粘土層	耕作土
基本土層		III	褐色土層	鉄分の鉛子を多量に含む・田面土
基本土層	N (Na)	IV	褐灰色土層	田面土
基本土層	Nb	V	褐灰色十層	鉄分の沈積・田水田土
基本土層	V (Va)	VI	黑色土層	褐色土ブロックを含む
基本土層	Vb	VII	黑色土層	
基本土層	VII	VIII	深褐色土層	砂質
基本土層	VII	IX	暗褐色土層	砂質・漬物含む
基本土層	X			植生層 I～Ⅴ層土の混合土・施肥供給等の工事時に人為汚染をしたものと考えられる
第4回 西生田1北壁 4往	A-A'	1	暗褐色土層	
第4回 西生田1北壁 4往	A-A' + 2a	2a	暗褐色土層	φ1~5mm C少
第4回 調査区1上壁 4往	A-A' + ZG	ZG	暗褐色土層	φ3~10mm ロームブロック少 φ1~5mm C少 φ3mm PR少
第4回 西生田1北壁 4往	A-A'	3	暗褐色土層	φ3~10mm ロームブロック少 しまりや中強
第4回 西生田1北壁 4往	A-A'	4	暗褐色土層	しまり強
第4回 西生田1北壁 SDII	A-A'		町面土土層	Vb+ VIの混合土 φ1mm C強
第5回 5往	D-D'	1a	暗褐色土層	φ1~5mm C少
第5回 5往	B-B'	1b	暗褐色土層	砂質土をブロック状に含む φ1~5mm C少
第5回 5往	B-B'	2a	暗褐色土層	砂質 φ1~5mm C少
第5回 5往	B-B'	2b	暗褐色土層	砂質 φ1~5mm C少 φ2~3mm PR少
第5回 5往	B-B'	2c	暗褐色土層	砂質 (2よりも砂質) φ1~5mm C少 φ2~3mm PR少
第5回 5往	D-D'	3a	暗褐色土層	φ1~5mm Cやや多
第5回 5往	B-B'	3b	暗褐色土層	φ1~5mm Cやや多
第5回 5往	B-B'	3c	暗褐色土層	φ1~5mm Cやや多
第5回 5往	B-B'	4a	暗褐色土層	
第5回 5往	B-B'	4b	町面土土層	ワク土地盤後の劣化の可能性有
第9回 調査区3北壁	B-B'	9a		V層土+ 粘
第9回 調査区3北壁	B-B'	9b		V層土+ 粘 2よりもやや明るい
第9回 調査区3北壁	B-B'	10a		V層土+ 粘 2よりもやや暗い
第10回 1往	K-K'	1a	暗褐色土層	φ1~2cm C PR少
第10回 1往	E-E'	1b	野菜土土層	φ1~2cm C PR少 1aより色調明
第10回 1往	K-K'	2		VI層主体砂質 しまりや強
第10回 2往	E-E'	1	暗褐色土土層	φ1mm C 多
第11回 3往	F-F'	1	暗褐色土層	しまりやや弱
第11回 3往	F-F'	2	暗褐色土土層	φ1~3mm C PR少 しまりやや強

透構等土層観察表

図版 1



1・2号竪穴建物跡



4号竪穴建物跡



1・2号流路跡



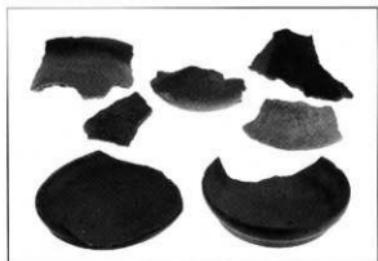
調査区 2



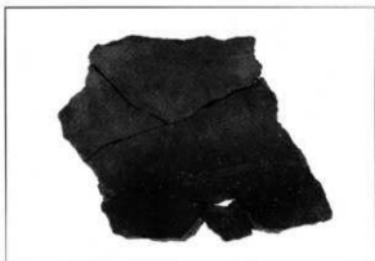
3号竪穴建物跡



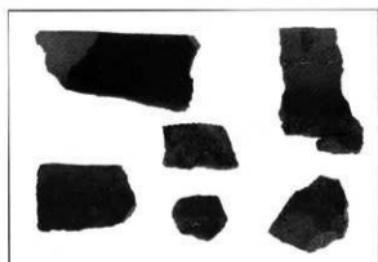
5号竪穴建物跡



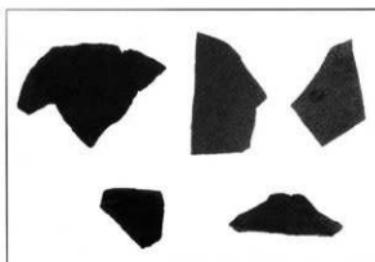
4号竪穴建物跡



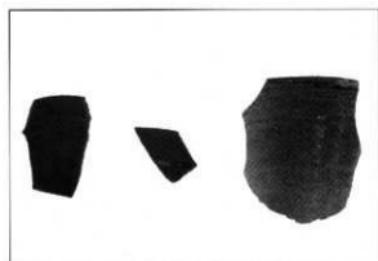
1号土坑



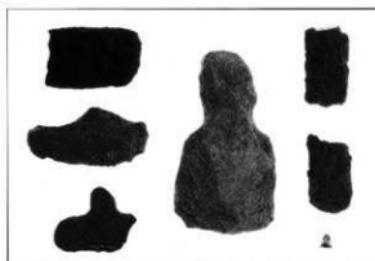
1号竪穴建物跡



3号竪穴建物跡

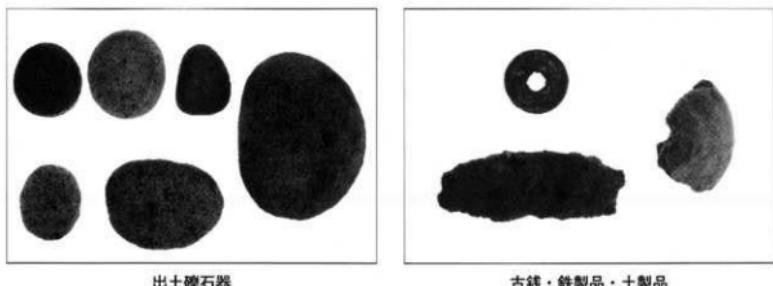


5号竪穴建物跡



出土打製石器

図版3



図版1 種実遺体・炭化材



2.コナラ属コナラ亜属クスギ節 (JU5;床直)

3.コナラ属コナラ亜属コナラ節 (TZ-3)

a:木口,b:柾目,c:板目

発掘調査報告書抄録

ふりがな	うしろだどうのまえいせき							
書名	後田堂ノ前遺跡							
副書名	集合住宅建設工事に伴う緊急発掘調査報告書							
編著者名	周間俊明							
編集機関	韮崎市遺跡調査会・韮崎市教育委員会							
住所	山梨県韮崎市水神1-3-1							
発行年月日	平成23年9月9日							
所取遺跡名	所在地	市町村コード	遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
後田堂ノ前遺跡	山梨県韮崎市藤井町北下條地内	19207	F-37	35°43'38"	138°26'47"	H22.10~23.9	約150m ²	集合住宅建設
所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
後田堂ノ前遺跡	集落跡	縄文時代	-		中期前半～晚期の土器・石器			
		弥生時代	土坑		後期の土器等			
		古墳時代	竪穴建物跡		後期の土器等			
		平安時代	堅穴建物跡		土師器等			
		中世以降	焼土ブロック		土器等			

後田堂ノ前遺跡発掘調査報告書

平成23年9月9日 発行

発行 韮崎市遺跡調査会・韮崎市教育委員会
〒407-8501
山梨県韮崎市水神1-3-1
TEL 0551-22-1111(代表)

印刷 ほおづき書籍株式会社
長野市柳原2133-5

